

灰の水曜日の説教

2017年3月1日 カテドラル

[\[聖書朗読箇所\]](#)

説教

今日から四旬節が始まります。

この後、灰の祝福が行われ、頭の上に灰を受けていただくこととなります。

そこで、思い出すひとつの和歌がございます。

「塵（ちり）に出で 塵にかへれる人なるを いまし頭上に灰をいただく」。

わたしたち人間は、塵から出て、また、塵に戻るものです。土から出て、土に戻っていく。

昨日、落合の斎場で、内山賢次郎神父様の火葬がありました。神父様が亡くなると、わたしたちは、いつも同じ火葬場、落合にある斎場に行って、茶毘（だび）に付（ふ）してもらいます。1時間くらいすると、火葬が終わって、声が掛かって、わたしたちは、遺骨、遺灰を骨壺にお納めする。みなさんもしていらっしゃることですが、骨上げ（こつあげ）と言うのでしょうか。

司教は、通常、司祭の葬儀を主宰する。神父様たちは、葬儀をいつもなさっていますが、わたくしの場合は、神父様のご葬儀をする。最近までご一緒だった方が、このように、遺骨、遺灰になってしまった。そのような、痛切な思いを持ちます。

そして、折しも、その翌日、今日が、「灰の水曜日」です。今年は、そのような巡り合わせになっています。人間は、誰でも、いつかは、地上の生涯を終えて、土に戻る。

しかし、わたしたちにとっては、それだけではありません。わたしたちは、「死は滅びではなく、神様のもとに帰ることである。死は新しいいのちへの門であり、地上の住み家を出て、天上の住み家へと旅立つことである」と信じています。今日は、この教えを深く思う日であると思います。

これから行う、灰の式の中で、わたくしが唱えるお祈りは、次のようになっています。

「土から出て、土に戻っていくわたしたちが、四旬節の務めに励み、罪の赦しを受けて、新しいいのちを得（え）、復活された御子の姿にあやかることができますように」。この祈りに、今日の典礼の主旨が込められております。

3つの朗読を思い起こし、一緒に味わいましょう。

第一朗読、ヨエルの預言。

「今こそ、心からわたしに立ち帰れ

断食し、泣き悲しんで。

衣を裂くのではなく

お前たちの心を引き裂け。」

神に立ち帰る。自分の人生を、神様に向かうように、向きを変える。変え直す。

心を引き裂きなさい。心を引き裂くという表現は、非常に印象的ではないでしょうか。

第二朗読は、コリント書 二。

「神と和解させていただきなさい」という言葉が、わたくしの心に留まりました。

神との和解。それは、神様に、わたしたちの罪を赦していただくということ。神様とわたしたちとのつながりを回復し、つながりを新たにし、よりしっかりとしたものとなるように、わたしたちの心を改める。心を清くさせていただくことではないかと思えます。

マタイによる福音。

偽善の戒めです。偽善と言われると、たじろいでしまう気持ちがあります。心にあることと、表現していることとの間に、ずれがある。言葉、表情、行動では、素知らぬ顔をして、自分が善いことをしていると装いながら、実は、心の中では、自分を満足させる、人から認めてもらう、自分の欲望を満足させることを、心の中で強く意識しているという場合、表と裏、外と内がかけ離れている。そのような場合、偽善というのではないのでしょうか。自分の中に、偽善が全くないとは言い切れない。そのような思いを、いつも申し訳ないと感じています。

地上の生涯は、いつかは終わりになる。土から出て土に戻る。しかし、わたしたちの存在は、ただ、状態が変わるだけで、新しいいのちへと進んでいくと、わたしたちは信じている。死という門を通過して、新しいいのちに移るまでの、地上の生涯。限られた時間が、ますます縮まっていきますが、大切にしたい。心を込め、ただ、神様に向けて、ささやかであっても、自分にできる真心のある献げ物を、そのような犠牲をお献げして、四旬節を過ごしたいと考えております。

聖書朗読箇所

第一朗読 ヨエル書 2:12-18

主は言われる。

「今こそ、心からわたしに立ち帰れ

断食し、泣き悲しんで。
衣を裂くのではなく
お前たちの心を引き裂け。」

あなたたちの神、主に立ち帰れ。
主は恵みに満ち、憐れみ深く忍耐強く、
慈しみに富み
くだした災いを悔いられるからだ。
あるいは、主が思い直され
その後に祝福を残しあなたたちの神、主にささげる穀物とぶどう酒を
残してくださるかもしれない。

シオンで角笛を吹き
断食を布告し、聖会を召集せよ。
民を呼び集め、会衆を聖別し
長老を集合させよ。
幼子、乳飲み子を呼び集め
花婿を控えの間から
花嫁を祝いの部屋から呼び出せ。
祭司は神殿の入り口と祭壇の間で泣き
主に仕える者は言うがよい。
「主よ、あなたの民を憐れんでください。
あなたの嗣業である民を恥に落とさず
国々の嘲りの種としないでください。
『彼らの神はどこにいるのか』と
なぜ諸国の民に言わせておかれるのですか。」

そのとき主は御自分の国を強く愛し
その民を深く憐れまれた。

第二朗読 ニコリントの信徒への手紙 5:20-6:2

(皆さん、)神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵

みは無駄にしてはいけません。なぜなら、

「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。

福音朗読 マタイによる福音書 6:1-6、16-18

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)

「見てもらおうとして、人の前で善行をしないように注意しなさい。さもないと、あなたがたの天の父のもとで報いをいただけないことになる。

だから、あなたは施しをするときには、偽善者たちが人からほめられようと会堂や街角でするように、自分の前でラッパを吹き鳴らしてはならない。はっきりあなたがたに言う。彼らは既に報いを受けている。施しをするときは、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。あなたの施しを人目につかせないためである。そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。

祈るときにも、あなたがたは偽善者のようであってはならない。偽善者たちは、人に見てもらおうと、会堂や大通りの角に立って祈りたがる。はっきり言う。彼らは既に報いを受けている。だから、あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。

断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言う。彼らは既に報いを受けている。あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」

[説教へ戻る](#)